着いた図書館の雰囲気が残っていました。京都大学附属図書館にもぜひ欲しい施設の一つだと思います。

最後に、3ヶ月間留守をしてご迷惑をおかけした情報サービス課の皆さんに、また、在外研究員実現のためにご尽力いただいた関係者の皆さんに深く感謝いたします。ありがとうございました。

（すずき　けいじ）

「英国図書館の未来とイギリスにおける大学図書館の発展」

リチャード・ローマン氏講演要旨

はじめに

1999年5月21日、英国図書館（The British Library）のリチャード・ローマン氏(Mr. Richard Roman)による講演「英国図書館の未来とイギリスにおける大学図書館の発展」が行われた。これは、1999年度第1回近畿地区国公立大学図書館協議会講演会のひとつとして行われたもので、本稿はその要旨である。

1.英国図書館の役割

英国図書館はイギリスの国立図書館であり、ふたつの基本的な役割を担っている。ひとつは、他の伝統的な図書館と同じように、閲覧室を通じてすべての資料にアクセスできるようにする役割である。そしてもうひとつは、地理的に遠く離れた利用者へも英国図書館のコレクションを提供するという役割である。英国図書館では、前者をダイレクト・サービス、後者をリモート・サービスとして、明確に位置付けている。

2.ダイレクト・サービス

1997年11月、ロンドンのセント・パンクラスに、英国図書館新館が開館された。新館の完成により、15箇所に点在していた英国図書館のコレクションを、1箇所にまとめることができ、利用者へのより快適な環境を提供している。大英博物館から引き継がれた遺産から、特許、最新科学技術論文など幅広い資料を、機能的に一括して収蔵することにより、求められる資料をより早く提供し、より充実したレファレンス・サービスを行えるようになった。この新館設立により、ダイレクト・サービスの更なる向上が期待されている。

3.リモート・サービス

英国図書館のもうひとつの基本的役割であるリモート・サービスは、地理的に遠く離れたところへ英国図書館の資料を提供することをその第一の目的としているが、このサービスは、「ドキュメント・デリバリ・サービス」と「資料のディジタル化」を中心に成り立っている。

A ドキュメント・デリバリ・サービス

英国図書館におけるドキュメント・デリバリ・サービスは、30年にわたってイギリスの図書館協力や文献提供の基礎となり、今や世界中に文献を提供するまでに至っている。現在、世界各国から月に2万件以上の文献複写のリクエストを受け付けており、日本からも約1000機関が、日常的に英国図書館のドキュメント・デリ

バリ・サービスを利用している。
'inside Web'は、このサービスをより快適に提供するために開発されたシステムである。データベース検索サービスとドキュメント・デリバリ・サービスを統合し、Webベースで提供するサービスであり、京都大学でも工学部、工学研究科、情報学研究科、エネルギー科学研究科で、このサービスが利用されている。
学術雑誌の年間購読料高騰は世界的規模で問題になっており、図書館でもこれまで構築してきたコレクションを見なおさざるを得ない段階に来ている。ここで英国図書館は、「'JUST IN CASE'と'JUST IN TIME'のバランス」という考え方を提唱していきたいと考えている。あらかじめ利用者のニーズが具体的に生じる前に所蔵しておく資料と、利用者のニーズが生じてから取り寄せる資料とのバランス、いいかえれば、「所蔵」と「アクセス」のバランスである。'inside Web'では、この「アクセス」という分野で、よりよいサービスを提供するために、更なる開発が進められている。現在、リクエストされた文献は郵便およびFAXで提供されているが、近い将来、電子的媒体でも提供する予定である。

B 資料のディジタル化

英国図書館におけるリモート・サービスのもうひとつの柱である「資料のディジタル化」は、1994年より行われた、英国図書館のコレクションの利用を最大限に引き出すことを目的に電子的手段をいかに効果的に使うかという実験 - Initiatives for Access - がその始まりといえる。1996年には電子図書館プロジェクトが開始され、さまざまな資料ディジタル化プロジェクトが実施されている。「国際敦煌学プロジェクト(The International Dunfuang Project)」「ベーオウルフ(Beowulf)」「ターニング・ページ(Turning the Pages)」は、その中でも中心的なプロジェクトである。
1900年に、敦煌の石窟から経典写本、巻物、図版などが大量に発見され、敦煌学という学問体系が樹立された。約20年にわたり20000点あまりが発掘され、最も古い巻物は9世紀に遡ることできるといわれる。この主なコレクションは、英国図書館、北京図書館、セントピーターズバーグ東洋学研究所、フランス国立図書館に所蔵されることとなり、小さなコレクションは世界各国に分散している。貴重な資料であるにもかかわらず、完全な目録がないこと、閲覧するには資料が脆すぎること、利用基準をもたない所蔵機関があることなどの理由が、その研究に支障をきたしている。「国際敦煌学プロジェクト」は、これらの分散したコレクションをディジタル化することによって疑似統括し、アクセシビリティの向上を目的とした国際プロジェクトである。英国図書館所蔵1000写本はすでにディジタル化されており、次段階として、北京図書館所蔵分がディジタル化される予定である。英語のデータベースと中国語のデータベースを現在開発中である。

「ベーオウルフ」は有名な古英詩であり、英国図書館で所蔵されている中世写本が唯一現存している。詩は、スカンジナヴィア・イェーアト族の英雄ベーオウルフの偉業を物語ったものである。この古写本は数度の火災で破損しており、脆くなった羊皮紙を守るため、紙の台紙に乗せられている。様々な条件の下、超高解像度カラースキャンニングカメラで撮影することにより、汚損により読めなくなっていた文字を浮き上がらせることに成功した。キールナン教授はこの最新科学技術を駆使した分析により、ベーオウルフはバイキングによって語り継がれたものであるという通説をくつがえし、カヌート王朝時代に創作されたものであるという新説をうちたてることができた。更にディジタル化されたことによって、資料の保存の一助となったこと、国際的アクセスが可能になったこと、資料の拡大が可能になったことなどその恩恵は、はかりしれない。

「ターニング・ページ」は、学術的目的とい

うより、一般に英国図書館の貴重書を公開しようという試みのもとに開発されたシステムである。英国図書館新館の展示室に設置されているモニターを指で触れると、あたかも現実の本をめくるように資料を閲覧できる。現在四種の貴重書がディジタル化され、公開されている。

このように、英国図書館では世界でもっともアクセスしやすい国立図書館として、日々進化している。これからも、利用者の立場にたったサービスの改善を行うつもりである。今日の講演を機に、日本の皆様のご意見をいただければ幸いである。

おわりに

今回、通訳としてこの講演に参加することができた。講演の内容はもとより、私にとって通訳そのものが貴重な経験であった。このような機会を与えて下さった皆様に感謝の意を表します。

（附属図書館情報管理課受入掛　　呑海さおり）

京都大学経済学部創立80周年記念古典文献展示会開催報告

経済学研究科では京都大学経済学部同窓会との共催により、平成11年10月1日(金)から10月5日(火)まで、附属図書館3階で京都大学経済学部創立80周年記念古典文献展示会を開催しました。学内外から645名の入場者がありました。入場者の皆さんからは資料に対する思い、生の声を聴くことができました。(アンケート集計結果については，経済学部図書室のホームページにて報告の予定です。)教官・院生・図書室職員が図録作成・展示会場設営・展示説明会開催と共同作業できましたことも、うれしい思い出です。展示会を支えていただいた各方面の皆様に厚く御礼申し上げます。以下は展示に携わった院生の感想です。

(経済学部整理掛長　菅　修一)

「古典文献展示会」開催をお手伝いしさる10月1日から5日まで開催された、経済学部創立80周年記念の古典文献展示会は、まだ厳しい残暑の中にあったにも関わらず、多数の入場者に恵まれました。経済学の歴史を静かに語ってくれる、淡い色彩の洋古書の展示を第1部、明治初期までの日本の姿を生き生きと見せてくれる、多彩な和古書の展示を第2部とした、少々変わった、対照的とも言えるような編成の展示会であったかも知れませんが、広い分野の方々に、どちらも負けず劣らず興味を持って見て頂けたことを、心からうれしく、光栄に思いました。有難うございました。私も、もとより、まだまだ勉強不足の身ではありますが、第1部「経済学の系譜」について、展示文献の選考、図録の作成、当日の案内および洋古書に関する解説をお手伝いする機会を与えて頂きました。専攻上、洋古書に触れる機会はこれまでも比較的多かったとはいえ、これほど大量の、稀少度の高い文献に、しかも体系的に触れることができたということは、極めて触発的な、得難い体験でした。経済学における古典文献は、経済学史における里程標としてだけではなく、個々の経済学者、経済思想家の思考の軌跡を見るに当たっても、研究上、極めて貴重な資料です。今回ご覧頂けたものはその中の一部に過ぎませんが、大量の古典籍の蓄積を前にして、改めて先学に感謝するとともに、有効な活用、さらには将来への継承と発展のお役に立つことの出来るよう、微力ながらも、努力しようという決意を新たにしました。

末筆ながら、残暑の中をご来場くださった皆